

中小企業地域資源
活用促進法に基づく



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

わが市町村の
ふるさと名物は
これ!



佐賀県有田町
が応援するふるさと名物

有田焼 ～400年の歴史を振り返り、未
来の扉を開くために～

- ◎有田焼
- ◎重要伝統的建造物群保存地区
- ◎有田陶器市
- ◎町歩きツアー



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

応援宣言

佐賀県有田町

地域の
プロフィール

沿革・歴史・文化

佐賀県の西部に位置する有田町は、谷あい広がる小さな町です。人口はおよそ21,000人、面積は65.85平方キロメートルで、2006年3月1日に、旧有田町と旧西有田町が合併し新しい「有田町」が誕生しました。美しい景観を誇る田園地帯や、黒髪連山など豊かな自然に恵まれた町です。

やきものの町としての有田の歴史は、豊臣秀吉の朝鮮出兵にさかのぼります。その折、朝鮮半島から連れて来られた陶工の李参平らによって、17世紀初めに有田の泉山で、磁器の原料となる良質の陶石が発見され、日本で初めて磁器が焼かれたことに始まります。

それからわずか20～30年後の1630年代に、本格的な磁器生産が行われるようになった有田では、佐賀藩の厳しい管理の下、現在の窯業スタイルに近い分業化による生産体制が築かれます。以来、谷あい「有田千軒」と呼ばれる町並みが形成され、繁栄を極めました。この町並みは、現在も歴史的価値の高い建物が数多く残っており、1991年に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されています。

また、毎年4月29日から5月5日までのゴールデンウィーク期間中、有田陶器市が開催されます。町内一円にわたって店が並び、九州を中心に、全国から100万人以上が来場され、いつもは静かなやきものの里もこのときばかりは大いににぎわいます。

有田町では、これらの伝統と歴史、豊かな観光資源を生かし、国内外から観光客が訪れる町づくりに取り組んでいます。



泉山磁石場



重要伝統的建造物群保存地区

1

有田焼

◆世界に誇る「有田焼」

佐賀県有田町を中心に焼かれる磁器のことを「有田焼」といいます。17世紀初めにこの地で焼かれるようになった磁器は、有田から10キロほど離れた伊万里港から国内外に出荷されたため、積み出し港の名をとって「伊万里」とも呼ばれています。

江戸時代の有田焼は、さまざまに変遷し、その製造時期や様式から「初期伊万里様式」「柿右衛門様式」「金襴手様式」などに大別されます。また、これとは別に、献上用として焼かれた磁器もあり、伊万里大川内山の藩の御用窯で作られたものを「鍋島様式」、皇室に納められたものを「禁裏様式」と呼んでいます。

硬く丈夫で、透明感のある白磁に、藍色や赤・黄・金など鮮やかな色が繊細にほどこされているのが特徴です。有田の磁器は17世紀後半から18世紀後半にかけて、国内はもとより欧州を主とした海外へも多く出荷されるようになりました。かつてその繊細で優美な作風が欧州の王侯貴族を魅了してきました。

400年もの間、その伝統と技術が脈々と受け継がれてきた有田焼は、今でも多くのやきものファンに愛されています。

2

重要伝統的建造物群保存地区

◆有田内山の「重要伝統的建造物群保存地区」

有田町の東部に位置する「内山」地区の、大通り沿いを中心とする約2kmの範囲が伝統的建造物群保存地区になります。この町並みは、現在も歴史的価値の高い建物が数多く残っており、1991年に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されています。（佐賀県では、初の重伝建地区に選定されました。）

やきものを中心に栄えてきた有田内山には、江戸時代より明治、大正、昭和の初期にわたり、その時代を代表する漆喰壁の町屋や洋風建築等が建てられ、九州でも最も質が高いといわれる変化に富んだ独特の町並みを形成しています。この有田内山の町並みは、各時代の常に新しいものを受け入れつつ発展してきたため、全体としては多様性に富んだ表情を持っていることが大きな特徴です。

また、城下町、商家町、山村集落等の重要伝統的建造物群保存地区では、かつて、ある時代に繁栄していたが、現在ではその役割が消滅していることがほとんどとなっていますが、有田は、他の地区とは違い、有田焼という伝統産業が現在まで継承されています。

3

有田陶器市

◆ゴールデンウィークの一大イベント「有田陶器市」

1896年に香蘭社社長・九代深川栄佐衛門と有田磁器合資会社社長田代呈一を中心に「陶磁器品評会」が始まり、1915年より陶磁器品評会に併せて、地元の陶磁器店が在庫品や等外品の「蔵ざらえ販売」を始めたのがきっかけとなり陶器市が始まりました。第二次世界大戦後になると、半端モノや傷モノ、時には有田焼以外の品物を含めて豊富に並べて売るといったスタイルが確立されました。客側の目利き、店側との駆け引きが楽しめるイベントとして現在まで続いています。

4月29日～5月5日の会期中は、町内一円にわたって店が並び、いつもは静かなやきものの里もこのときばかりは大いににぎわいます。人出は九州を中心に、全国から100万人以上。磁器製品の安さ、豊富さ、そして独特の活気が毎年多くの人々を有田へと誘います。



毎年100万人以上が訪れる有田陶器市

ふるさと
名物

町歩き

◆町歩きツアー

日本磁器誕生の地であり、400年の歴史を育んできた有田町。産業の中心として栄えた内山地区は、その歴史を物語る「重要伝統的建造物群保存地区」に指定されています。この生きた博物館とも言える美しい町並みを中心として、町内の観光資源を活用した様々な町歩きツアーを実施しています。

有田焼の歴史や伝統を学び、有田焼の器で食事をし、製造行程を見学し、お買いものをするという「有田焼満喫ツアー」をはじめ、内山地区の風情ある町屋をガイドと巡る「有田の町屋歩き」、泉山磁石場、樹齢1000年の大公孫樹、トンバイ塀等を巡る「有田パワースポット巡り」などです。

このように、本町はやきものに関わる数多くの地域資源を有しており、そうした資源をこれからの観光に最大限に生かしたまちづくりに取り組んでいます。



風情あるトンバイ塀の裏通り



樹齢1000年の泉山大公孫樹



磁器製の大鳥居がある陶山神社



ガイドと巡る町歩きツアー

1

利子補給制度

◆中小企業融資資金緊急利子補給補助金制度

本町で事業を営む中小企業者が設備の近代化、合理化及び拡大を図るため、金融機関から融資を受けた資金に対して利子の一部を補給することにより、中小企業者の振興と地場産業の活性化を図ります。

2

有田焼で乾杯

◆有田焼の酒器による乾杯を促進する条例の制定

400年の歴史を誇る有田焼、特に有田町内産の酒器による乾杯の文化を広めることにより、陶磁器産業はもとより、酒造業その他の関連産業の発展及び郷土愛の醸成を図り、有田焼による乾杯文化の普及を通じた有田町の歴史及び文化への理解の促進に寄与することを目的に制定されました。町は、有田焼による乾杯とその普及及び促進に積極的に取り組むよう努めます。



有田の酒器展

3

有田焼創業 400年

◆日本磁器誕生・有田焼創業400年事業の開催

2016年は日本磁器誕生・有田焼創業400年を迎えます。歴史と伝統を誇る産地として、次の50年、100年に向けた持続可能で魅力的なまちづくりの第一歩となるよう「日本磁器発祥・有田焼創業400年事業」に取り組んでいます。窯元や商社等は、欧州の見本市への参加、海外のデザイナーと連携したモノづくり等に取り組んでいます。また、有田焼の付加価値や魅力を多くの人に発信し、有田焼ファンの開拓や販路拡大につながる体制等を再構築するため、「400年有田の魅力展」として、国内主要都市の百貨店での有田焼の展示、催事を実施します。



海外での見本市